

普及活動情勢報告（平成29年 4月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

天敵の活用推進へ！～ハウスシシトウ現地検討会の開催～



現地検討会の様子

3月30日に須崎市内ハウスシシトウほ場にて、現地検討会を開催し、JA土佐くろしおハウスシシトウ部会の15名が参加しました。

農業改良普及課からは、今後の栽培管理、リモネカスカブリダニなどを利用したIPM試験の途中報告、PMMoV対策について情報提供しました。

農家らは、ほ場の環境測定器や試験品種に注目したり、「リモネカスカブリダニを初めて知った。」という声もあり、新しい天敵への関心が見受けられました。

農業改良普及課は、今後もJAと連携して、部会への情報提供を行い、技術の向上や増収を支援していきます。

環境測定データの活用による品質・収量アップ！～第2回環境制御技術講演会を開催～



講演会風景

3月30日に今年度2回目の環境制御技術講演会をJA土佐くろしおで開催し、63人が参加しました。

講演会では県の新田専門技術員より、環境測定データを活用した管理の方法について、現場の事例を交えながら報告してもらいました。会場では、環境測定器のデモ機の展示がされ、農家がJA指導員に操作方法や機能などを確認するなど、関心の高さがうかがわれました。

農業改良普及課は、生産者の増収・増益につながる環境制御技術の普及に向けて、さまざまな取り組みを行っていきます。

成木期の剪定方法を学ぶ！～加工用ユズ剪定講習会を開催～



剪定の基本を実技指導

3月27～28日、津野山地域4ヶ所において成木期の剪定講習会を開催し、生産者延べ56人が参加しました。

農業改良普及課から剪定のポイントを説明し、JAからは剪定の実技指導を行いました。

参加者からは、「省力的な樹づくりと低樹高化のポイントは何か」や「株元から出た枝は残すのか」等、活発な質疑が出ました。

農業改良普及課は、今後もJAと連携して「学び教えあう場」の提供を通じて、生産者の技術及び知識のレベルアップを図っていきます。

異物混入の防止に向けて！～加工用ワサビ現地検討会・出荷目慣らし会を開催～



異物混入防止の意義を解説

4月10日、津野町高野の現地生産ほ場において加工用ワサビの最終現地検討会及び出荷目慣らし会を開催し、新規栽培者1名を含む生産者6人（5戸）が参加しました。JAは収穫・調製・出荷規格の遵守事項等を、農業改良普及課は異物混入防止について説明を行いました。

生産者からは、今作の生育状況についての意見交換や新規栽培者に収穫・調製のポイントを伝える等、学び教えあう場となりました。

農業改良普及課は、今後も情報共有し安定した出荷に向け支援していきます。

新しい加工品が完成！～6次産業化支援チーム会を開催～



3月24日、梶原町のカフェD'apan屋にて、（株）雲の上ガーデンの6次産業化支援チーム会を開催し、2人が参加しました。

これまで商品開発してきた「ピクルス de ソース」の発売に向けて、価格、時期などの最終確認をしました。農業改良普及課からは、原料であるビーツや万次郎カボチャに関する情報提供をした他、高知新聞社の取材をコーディネートし、販売開始に合わせて記事を掲載することとなりました。

農業改良普及課では、今後も売れ行きを確認しつつ必要に応じて支援を行います。